

令和 6 年 7 月 10 日

各 位

三神地域農業指導者連絡会作物部会
三神農業振興センター

「稲・大豆作情報（第2号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり送付しますので、業務の参考にして下さい。

1. 気象概況（アメダス観測地：佐賀）

【半旬ごとの気象データ】

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		本年 ℃	平年 ℃	本年 ℃	平年 ℃	本年 ℃	平年 ℃	本年 mm	平年 mm	本年 hr	平年 hr
6月	4	24.5	23.7	29.3	28.0	20.1	20.3	116	61	28.9	21.0
	5	25.0	24.2	27.4	28.1	22.9	21.1	30	78	5.1	17.2
	6	24.4	24.8	26.7	28.5	22.5	21.9	116	90	0.5	15.1
7月	1	27.7	25.5	31.2	29.2	25.6	22.7	141	96	12.9	16.7

【7月1～8日の気象概況】（平年と比較して）

気 温：平均気温は 2.7℃高かった。

降 水 量：1～2日に 141mmの降雨があったが、それ以降は降雨がなく、期間の合計雨量は平年比 94%と少なかった。

日照時間：平年比 112%と多かった。

2. 管内の生育概況

- ・7月3～8日は日照時間が確保されたため、同期間の草丈の伸長程度は小さく、茎数は増加し、軟弱徒長傾向からの回復がみられる。
- ・深水管理が継続され、分げつ発生が抑制されて茎数不足となっている圃場や、極端な浅水管理となり、風の影響により葉先の傷んだ圃場が散見される。

3. 情報田生育調査結果（7月9日現在）

（調査結果）

品種名	夢しずく	さがびより	ヒヨクモチ
草丈（cm）	51.1	29.1	24.9
平年値（平年比）	53.2(96)	32.7(89)	29.3(85)
茎数（本/m ² ）	174	88	164
平年値（平年比）	281(62)	131(67)	209(78)
葉齢（L）	9.4	6.1	7.7
平年値（平年差）	8.9(+0.5)	7.0(-0.9)	7.5(+0.2)
葉色（SPAD値）	39.5	38.8	37.0
平年値（平年差）	41.4(-1.6)	—	—

概況

生育

草丈：「夢しずく」はやや低く、「さがびより」「ヒヨクモチ」は低い。
 茎数：いずれの品種も増加しているが、移植後に深水が続き、初期分げつが少なかったため、全品種で少ない。
 葉齢から見た生育の早遅：
 「夢しずく」「ヒヨクモチ」はやや早く、「さがびより」は遅れている。

注1)「夢しずく、さがびより」の平年値は、過去7ヶ年のうち収量が最高値と最低値の年を除いた5ヶ年のデータを当年調査日に換算した平均値。「ヒヨクモチ」の平年値はH28～R5のうち欠損したR1,2を除く6ヶ年のデータを当年調査日に換算した平均値。

注2)ラウンドの都合で小数点以下が一致しない場合がある。

（参考）農業試験研究センター米づくり情報2号 R6年7月9日(抜粋)

移植日	項目		草丈 cm	茎数 本/m ²	葉齢 L	葉色 SPAD	概況 (平年と比較して)
	品種	年次					
6月18日	夢しずく	本年	33.3	231	7.6	34.9	[気象] 7月1日～8日まで ◆平均気温…平年より 2.7℃高い ◆日照時間…長い(平年比112%) ◆降水量…少ない(平年比94%) [生育] ◆草丈 「夢しずく」「さがびより」「ヒヨクモチ」はやや低い、「ヒノヒカリ」はやや高い。 ◆茎数 「夢しずく」「ヒノヒカリ」「さがびより」は多い、「ヒヨクモチ」はやや少ない ◆葉齢 「夢しずく」「ヒノヒカリ」「さがびより」はやや多い、「ヒヨクモチ」はやや少ない。 ◆葉色(SPAD値) 「夢しずく」「さがびより」「ヒヨクモチ」では平年並み、「ヒノヒカリ」ではやや低い。
		平年 平年比(差)	34.8 96	192 120	7.2 +0.4	35.6 -0.7	
6月20日	ヒノヒカリ	本年	29.9	317	7.8	36.0	
		平年 平年比(差)	28.7 104	250 127	7.4 +0.4	37.0 -1.0	
6月20日	さがびより	本年	30.0	203	7.4	37.5	
		平年 平年比(差)	30.5 98	170 119	7.2 +0.2	38.0 -0.5	
6月20日	ヒヨクモチ	本年	26.7	294	7.3	39.9	
		平年 平年比(差)	27.4 97	306 96	7.6 -0.3	39.3 +0.6	
留意点	○ 7月1日～8日は日照時間が確保されたため、草丈は2～4cm程度の伸長で草姿(先週末までは徒長気味)は回復した。葉齢は前回調査より2葉展開しており、4号、5号分げつが確保され、茎数は一気に増加した。						

4. 普通期水稲の今後の管理について（7月9日～）

（1）水管理

- ・分げつの確保及びスクミリンゴガイの食害回避のため、浅水管理を基本に行う。移植後から深水で経過した圃場では半日～1日程度の落水（地干し）を行った後、浅水管理に移行する。
- ・麦わらすき込みや麦収穫前の打ち込みを行った圃場でガスの発生が著しい場合は、半日～1日程度の落水と数日の浅水管理を繰り返し、土壌の急激な還元化を抑制する。
- ・6月上中旬移植の「夢しずく」では、中干し時期を迎える。1株当たり茎数が確保できた圃場から、中干しを実施する。
- ・中干しは土に軽い亀裂が入り足跡がわずかにつく程度とし、中干し後は間断灌水を行う。
- ・中干し時期の目安は以下のとおり

①「夢しずく」

6月10～14日頃移植の圃場では7月中旬から。

1株あたり茎数が18本以上。

②「ヒノヒカリ」・「さがびより」・「天使の詩」・「ヒヨクモチ」

6月20日頃移植の圃場では7月下旬から。

1株あたり茎数が20本以上。

※茎数が不足している圃場では、上記の目安より中干し時期が遅れることが予想される。そのような圃場では茎数が確保できたことを確認してから、軽めの中干しを実施する。

中干しの効果

- ・無効分げつの発生を抑制する（過繁茂防止、生育量の適正化）
- ・土壌に酸素を供給する（根の健全化、有害ガスの除去）
- ・田面を固める（圃場管理、機械作業の効率化）

（2）施肥

- ・6月20日頃移植「ヒヨクモチ」は、7月15日頃から中間追肥の時期を迎える。圃場の生育状況に応じ、中間追肥を実施する。（元肥に一発肥料や有機肥料を使用した圃場、大豆跡圃場では、中間追肥は行わない。）

（3）病虫害防除

①海外飛来性害虫

- ・6月23～24日頃、7月1～2日頃を中心に県西部のネットトラップでウンカ類（セジロウンカ、トビイロウンカ）が捕獲されている。
- ・各世代の発生予測など詳細は添付資料参照。
- ・今後の飛来状況や圃場条件（移植時期・品種・防除・周辺環境など）によって発生量や増殖率が異なるため、圃場での発生状況に注意する。
- ・今後、発生予測は随時更新されるため、防除の考え方等については、最新情報を農業技術防除センターのホームページで確認し、適期防除に努める。

佐賀県 農業技術防除センター



②いもち病

- ・本田で新たな病斑の発生が認められたら防除を検討する。
- ・補植用苗を圃場に放置すると、いもち病の温床となるので早急に撤去する。

(3) 除草作業

- ・除草剤が散布できなかつた圃場や除草剤処理後に田面が露出した圃場などでは、除草剤の効果が低下したため、雑草の発生がみられる。
- ・このような圃場で、放置するとヒエや広葉（コナギ・アゼナ）が繁茂し、薬剤による雑草防除が困難となるため、中後期除草剤との体系処理を検討する。
- ・薬剤については添付資料参照

5. 大豆の今後の管理について

安定・多収を目指すには「出芽・苗立ちの確保」が重要である。

これから播種適期を迎えるが、降雨が続き、湿潤状態の圃場が多いため、耕起可能な条件が整い次第すぐに播種できるように準備をしておく

(1) 今後の天候

- ・播種適期を迎えるが、梅雨明けしておらず、10日以降には再び降雨が続く見込みである。

参考) 週間天気予報 (佐賀県: 7月9日 17時発表)

今夜 09日(火)	明日 10日(水)	明後日 11日(木)	12日(金)	13日(土)	14日(日)	15日(月)	16日(火)
晴後曇 	雨時々止む 	曇時々雨 	曇時々雨 	曇時々雨 	曇時々雨 	曇一時雨 	曇 
-/-/10	30/50/50/60	80	70	70	70	60	40

(2) 雑草防除

①播種前処理

- ・雑草発生が目立つ圃場では、播種前に非選択性茎葉処理剤（ラウンドアップ、プリグロックス等）を散布する。その際、周囲の水稻等への飛散がないよう注意する。
- ・非選択性茎葉処理剤の使用に当たっては耕起前日でも枯殺可能。ラウンドアップは1日で吸収移行、散布後1時間後の降雨でも効果が期待される。プリグロックスは1日程度で効果発現、散布後15分後の降雨でも効果が期待される。

②播種後処理

- ・播種直後に土壌処理剤を散布する。なお、難防除雑草のヒロハフウリンホオズキ、ホソアオゲイトウの発生が多い圃場ではフルミオ、ラクサー乳剤の除草効果が高い。

(3) 圃場準備

- ・荒起しは、圃場が乾くのを待ち、播種前日～当日に行う。
- ・耕起後に降雨にあった場合は土壌が乾燥しにくく、晴天が続く場合は乾燥しやすくなる。播種後に晴天が予想される場合には、乾燥による発芽率の低下が懸念されるため、荒起こしと播種耕起の間隔を空けないようにする。

(4) 播種作業

①種子消毒

- ・紫斑病やその他の雑菌の防除効果が高く、腐敗防止や発芽率の向上に効果がある為、種子消毒（クルーザーMAX、キヒゲン R2 フロアブルなど）を実施する。

②播種量・深度など

- ・大豆の収量を確保するためには、播種時期にあった播種量を選択し、栽植密度を調整する。

播種期	栽植本数 (本/m ²)	栽植様式 条間×株間×1株本数	播種量 (kg/10a)
7月1～10日	7～8本	75×30×2	2.5～3.0
7月11～20日	10本	75×25×2	3.0～3.5
7月21～31日	13本	75×20×2	4.0以上

- ・播種後に降雨が多い予報の場合、2 cmの浅めにして播種後の鎮圧は行わない。
- ・播種後に晴天が続く場合は、4～5 cm前後の深めにして鎮圧を行う。
- ・1工程で播種する場合には、碎土率を高めるため、作業速度を遅くする。
- ・播種作業には、麦用の「片培土板」をロータリに装着して畦立て播種すれば、表面排水も良くなるため、湛水による出芽不良を軽減することができる。

令和6年産 水稻生育期間気象グラフ

(アメダス観測地点：佐賀, データ更新日：6月30日)

三神農業振興センター

